

国際科学技術関係大臣会合の結果について

平成 21 年 10 月 5 日

内閣府政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）

1. 日 時： 平成 21 年 10 月 4 日（日） 15：50～18：25
2. 場 所： 国立京都国際会館「Room A」
3. 参加者： 世界各国から 22 カ国が参加（別添参照）
4. テーマ： 「現在の経済状況における科学技術の役割」
5. 議事進行： 議長である津村内閣府大臣政務官による本会合のテーマの趣旨説明の後、専門家 2 人による基調講演を実施。その後、参加国による意見交換を行い、最後に、議長が議論をとりまとめ。

6. 結果概要：

(1) 基調講演のポイント

フィリップ・キャンベル Nature 編集長：“*Science and technologies for sustainable development: information and communication*”

- 講演の主題は、持続可能な発展を実現する上で必要となる、革新技術、社会変革及び人材開発のあり方について。
- 革新技術の例として省エネ技術、マラリア対策、LED 照明、電子書籍(e-ink)。さらに、持続可能な社会を実現する上での、情報およびコミュニケーションの役割と ICT 技術の重要性。
- 社会変革を実現していく上での、公開を軸とした市民の行動様式変化の重要性と、「情報」が果たす役割。更には、行動様式の変化に伴う研究開発のあり方の変化。
- 人材開発のあり方として、女性および疾病調査を担う人材の重要性を指摘。

黒川 清 政策研究大学院大学教授：“*Science, Technology and Innovation; Multi-layered Brain Circulation*”

- このわずか 100 年の間に、人口の急激な増加やインターネットの発達によって、産業や技術が進歩を遂げた一方、それに伴う様々な課題も存在。
- 我々が直面している、気候変動、食料、水問題等の地球規模課題の解決に向けては、科学技術への投資が必要であり、ボトムアップかつ多様なステークホルダーの関与が重要。
- 科学技術への投資は、その成果を社会へ還元する「人」への投資でもあり、頭脳循環の中で若い人材が海外で経験を積み、ネットワークを築くことは極めて重要。

(2) 津村内閣府大臣政務官による議論取りまとめ

- 今般の経済危機を克服するためには、科学技術とイノベーションが不可欠。科学技術活動を担う主体は、産官学から NGO 等にいたるまで多様であり、相互の連携が極めて重要である。
- 科学技術とイノベーションは、今般の経済状況下において、長期的な持続可能な成長の基盤を築く役割を担っており、低炭素社会、環境保護、食料安全、健康等の課題の解決に向けては、「グリーンイノベーション」が1つのキーワードとなり得る。
- また、科学技術だけでは持続的成長に向けた課題解決は実現出来ず、社会システムや市民、組織の行動変革及び情報の共有、開示が不可欠である。
- 更に、課題解決を担う人材の育成は重要であり、頭脳循環の中での人脈構築が期待される。
- 現在、世界各国が直面している多様なレベルの課題の解決のためには、多様なレベルの国際協力が不可欠であり、更なる成果に向けて、既に行われている活動についての情報共有、連携が重要。
- 我が国としては、今後の環境・エネルギー分野等における二国間、多国間の科学技術協力を積極的に取り組んで参りたい。

国際科学技術関係大臣会合出席者(平成21年10月4日(日))

<大臣>

	国名	氏名	役職
1	アンゴラ	マリア・キャンディダ・ペレーラ	科学技術大臣
2	アルゼンチン	リノ・バラニャオ	科学技術・生産革新大臣
3	ブラジル	セルジオ・マシャード・レゼンデ	科学技術大臣
4	コートジボワール	ヒポー・オグ・アレクシス	高等教育・科学技術・内閣官房長官
5	エチオピア	ジョネディ・サド	科学技術大臣
6	ドイツ	フリーダー・マイヤー＝クラマー	教育研究省事務次官
7	インド	ティルマラチャリ・マラサミ	科学技術省次官
8	日本	津村 啓介	内閣府大臣政務官(科学技術政策担当)
9	ケニア	サリー・チェブネックティチ・コスゲイ	高等教育・科学技術大臣
10	ラトビア	タティアナ・コチェ	教育科学大臣
11	マラウイ	オトリア・モヨ・ジェレ	教育・科学・技術省副大臣
12	オマーン	ラウィーヤ・ビン・サウド・アル・ブサイディア	高等教育大臣
13	パキスタン	モハメド・アザム・カーン・スワティ	科学技術大臣
14	ロシア	アレキサンダー・クルノフ	教育科学次官
15	ルワンダ	チャールズ・ムリガンデ	教育・科学技術研究担当大臣
16	シンガポール	リム・チュアンポー	科学技術研究開発庁(A*STAR)長官
17	スーダン	エイサ・ブシュラ・モハメド・ハミッド	科学技術担当副大臣
18	スイス	マウロ・デルアンブロージオ	文部科学技術庁長官
19	タイ	カラヤー・ソーポンパーニット	科学技術大臣
20	英国	ジョン・ベディントン	英国政府主席科学顧問
21	ベトナム	ル・ディ・ティエン	科学技術副大臣
22	ジンバブエ	ヘネリ・ジノチウエイ	科学技術大臣

<ゲストスピーカー>

1	日本	黒川 清	政策研究大学院大学教授
2	イギリス	フィリップ・キャンベル	ネイチャー編集長